

講演会は終了しまし
たが、ご参考に、
ひきつづき掲載いた
します。

“Global Food Security and Climate Change”

— グローバルな食糧問題と気候変動 —

講 師 大塚 啓二郎 教授

FASID/GRIPS 国際開発プログラム プログラム・ディレクター、教授

Lecturer Dr. Keijiro OTSUKA

Professor, FASID/GRIPS IDS Program

日 時: 平成21年11月20日(金) 13:00~13:45 (開場 12:45)

場 所: 国連大学 UNハウス内 メディア・スタジオ (渋谷区神宮前5丁目53-70)

言 語: 英 語 参加費: 無 料

主 催: (財) 国際開発高等教育機構(FASID) ・ 慶應義塾大学大学院

Date : Friday, November 20, 2009 Seminar 13:00-13:45 (Open 12:45)

Place : UN House Media Studio (Shibuya-ku, Jingumae 5-53-70)

Language : English Fee: Free of Charge

Organized by : FASID / Keio University

MAP : <http://www.unu.edu/access/>

Invitation: http://www.fasid.or.jp/daigakuin/sien/kaisetsu/doc_pdf/091120.pdf

Lecture Materials: http://www.fasid.or.jp/daigakuin/sien/kaisetsu/doc_pdf/091120report.pdf

申込み: 申込フォームのURLからお申込み下さい。

* 同URL にアクセスできない折等はどうぞEメールにて、お名前、所属先・部署(日本語ならびに英語)、
電話番号を(kouza@fasid.or.jp)へお送り下さい。

(先着順:会場スペースの都合でご出席頂けない場合がございます。早目にお申込下さい。)

FASID では慶應義塾大学、国連大学等の協力を得て「国際開発特別講座 2009」を開講しています。同講座ではアジア・太平洋地域に所在する国内外の大学(ハワイ大学、The Energy & Resources Institute、TERI (インド)、Asian Institute of Technology (AIT)、青山学院大学、岡山大学、琉球大学、早稲田大学他)の参画を得て遠隔講座方式により実施しています。このたびは多くの方々にご参加頂く機会として公開形式での講義を開催しますのでここにご案内申し上げます。

みなさまのご出席を心よりお待ちしております。

* 上記に続き、本件遠隔講義参加校の岡山大学から山本秀樹准教授(環境学研究科)が講義予定ですので続けてご出席下さい。13:45~14:30(予定)

テーマ「Local Responses to Climate Change:

Education for Sustainable Development (ESD)- Experience in Okayama」

申込・お問合せ: (財)国際開発高等教育機構(FASID) (服部)

電話 03-5226-0356, 5226-0301 / FAX03-5226-0357 / e-mail:kouza@fasid.or.jp

Foundation for Advanced Studies on International Development

講師略歴

大塚 啓二郎 教授 (おおつか けいじろう)

FASID/GRIPS国際開発プログラム プログラム・ディレクター

専門分野: 開発経済学

学位: Ph.D. (経済学) (シカゴ大学)

略歴: 1971年北海道大学農学部農業経済研究学科卒業、74年東京都立大学社会科学部研究科修士課程修了、79年シカゴ大学経済学研究科より博士号取得、同年イェール大学経済成長研究所ポスドクトラルフェロー、80年東京都立大学経済学部講師、81年同助教授、86～89年国際稲研究所客員研究員兼任、91年東京都立大学経済学部教授、93～98年国際食糧政策研究所客員研究員兼任、2001年FASID大学院プログラム副ディレクター兼GRIPS連携教授、04-07年国際稲研究所(IRRI)理事長、08年～IRRI特別顧問、09年～国際農業経済学会会長、03年 FASID 大学院プログラム・ディレクター(現在に至る)。

～ Abstracts ～

グローバルな食糧問題と気候変動

昨年、穀物価格が高騰し、食糧の購入に所得のかなりの部分を支出している多くの貧困世帯が深刻な打撃を受けた。その一つの原因はオイル価格の急上昇である。オイル価格が上がると、化学肥料の価格が上がり、その結果食糧生産が減少してしまうのである。将来的には温室効果ガスの排出削減のために、化石燃料の使用は制限され、その結果、化学肥料の価格は上昇することは疑いない。また、アジアでは水不足も発生するであろう。それに加えて、気温の上昇が作物収量に悪影響を与え、洪水と干ばつが頻発することが予想されている。したがって、このままではグローバルに食糧が不足し、貧困問題はますます深刻化するであろう。それでは我々は食糧の安全保障を確保するためには、何をしなければならないであろうか。それを考えるのがこのレクチャーの主題である。

Global Food Security and Climate Change

Grain prices increased sharply last year, which resulted in serious food insecurity for the poor throughout the world. The main cause for the “food crisis” was sharply increased oil prices, which increased fertilizer prices and thereby reduced grain production. The fossil energy prices are expected to increase in future, as the effort to reduce greenhouse gas emission will accompany the reduction in the use of fossil fuels. Furthermore, food production will decrease with an increase in temperature and frequent occurrence of drought and flood due to climate change. Particularly in Asia, water will become scarce for agricultural use, as the demand for water for industrial and urban use will increase further. Thus, if the current trend continues, the global food insecurity cannot be avoided. What we should do now to avoid the tragedy is the issue I would like to address in my lecture.